

移動時の LGBTQの困りごと

新設Cチーム企画
植木 智

新設Cチーム企画について

「いろんな人が居て当たり前」な空間は、なんだか、みんな気持ちいい。をコンセプトに、2007年から大阪を拠点として活動
SOGIに関するワークショップの開発実践、講演・研修会、行政への講師派遣、派遣講師の育成、障害のあるLGBTQに関する取り組み、海外資料の翻訳などに取り組んでいる任意団体



なぜ困るのか？
LGBTQ+ に対する
社会的障壁と抑圧

「性別」ってなんですか？ 「異性」ってだれですか？

- 性のあり方（セクシュアリティ）は複数の要素で構成されている。**SOGIESC（ソジエスク）**は4つの**性の構成要素**の頭文字を並べたもの。性的指向・性自認・性表現・性的特徴がある。
- 性のあり方は「男/女」というような**はっきり2つに分かれるものではなくグラデーション**である。
- 「自身の性別」に関わる要素は複数あり、日本の場合は法的な性別もある。これらが一致する人もいれば、しない人もいる。

SOGIESC (ソジエスク) とは

- 性的指向 (セクシュアル オリエンテーション)
どの性に恋愛感情や性的関心が向かうかという指向。
- 性自認 (ジェンダー アイデンティ)
自分がどういう性であるかという認識。「女性」「男性」だけでなく、「中性」「どちらでもない」などもある。
- 性表現 (ジェンダー エクスプレッション)
服装や言葉遣い、振る舞い、しぐさなど社会的性 (ジェンダー) の表現。
- 性的特徴 : (セックス キャラクターリスティクス)
性器・乳房・体毛・声など身体の特徴。

抑圧のもととなっている社会の規範

- **性別二元論**

人間は「男性」か「女性」かにハッキリ分かれている
という考え方

- **異性愛規範**

恋愛や性的関心は異性に向くという考え方

これらはマジョリティ男性中心社会の中で作られてきた

LGBTQ+ と社会の構造

- 現在の日本は**異性愛規範**、**性別二元論前提**の社会システムである。
- そのため**様々な場面**（家族関係、教育、労働、住居、婚姻、医療、福祉、交通、娯楽etc.）で**LGBTQ+の存在が想定されていない**ため、社会的障壁・生きづらさ・差別がある。
- 例として、男女別エリアしかないトイレ、「男・女」しかなく性別の定義もない性別欄などがある。

LGBTQ+への抑圧

- 身近にいない・いるはずがない存在とされる
- マジヨリティである前提で話をされる
- 「異常者・不審者・未熟者」という存在として扱われる
- 笑いの対象として扱われる
- メディアなどが作り上げたステレオタイプを押し付けられる
- 興味本位でプライバシーに簡単に介入される

など

公共交通での 困りごとと事例

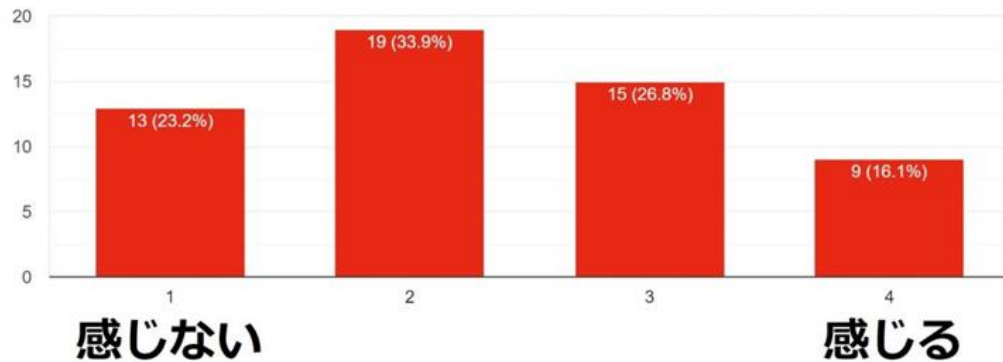
LGBTQ+と交通機関に関するアンケート

- これまでLGBTQ+と公共交通機関について、日本ではほとんど調査や研究が行われてこなかった。そこで当事者がどのように公共交通機関を感じているのか、どのような体験をしているのかについてアンケート調査を行った。
- アンケート期間：2022年10月1日～12月31日
- 方法：インターネット上でのGoogleフォームアンケート
- 回答数：60件（2023年1月9日現在）

公共交通機関を使う時に抱く気持ち（一部抜粋）

56 件の回答

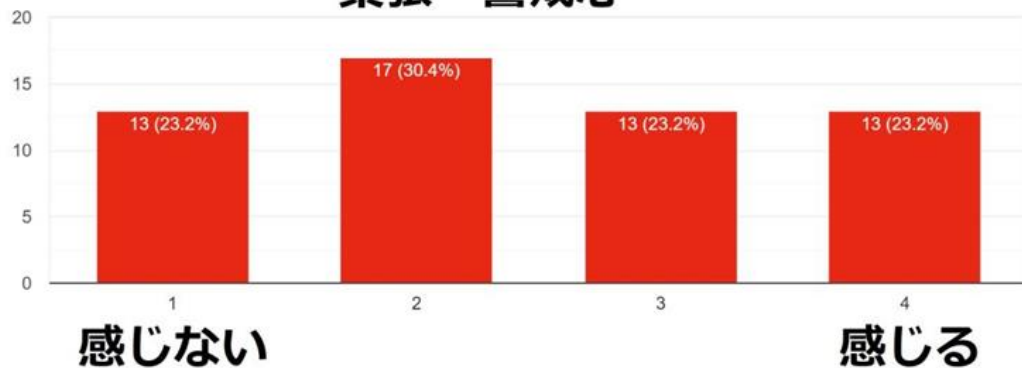
不安・心配



(1 = 全く感じない、4 = 強く感じる)

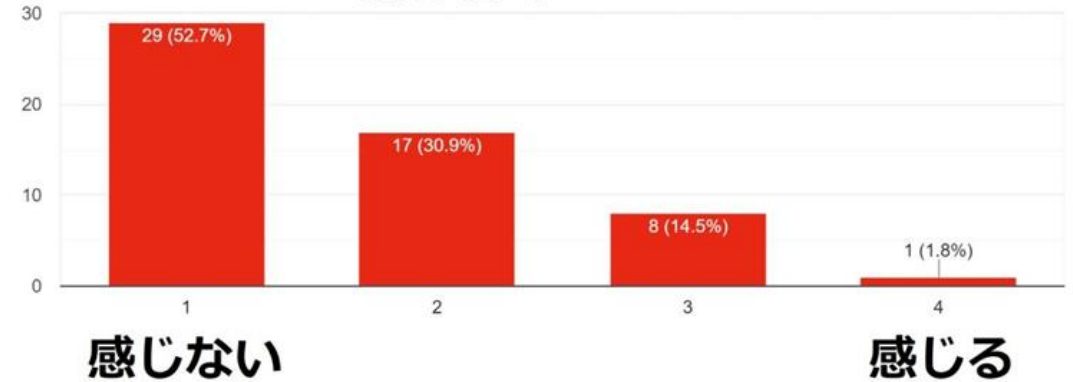
56 件の回答

緊張・警戒心



55 件の回答

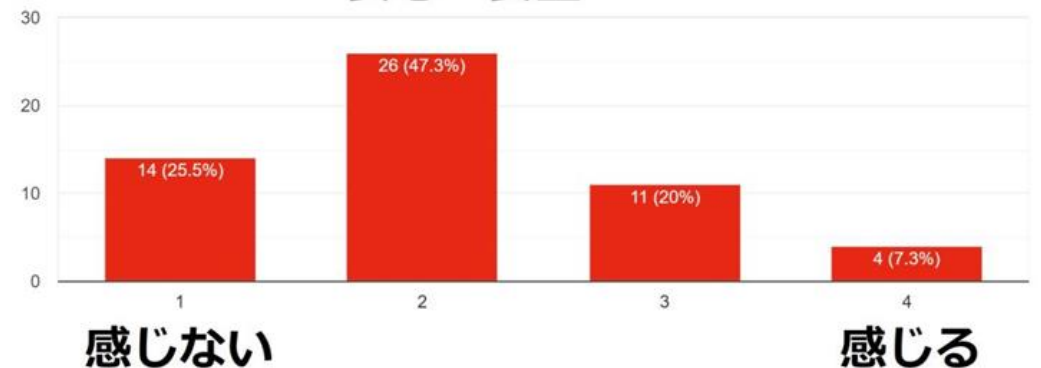
落ち着く



(1 = 全く感じない、4 = 強く感じる)

55 件の回答

安心・安全



なぜ安心できないのか？

公共交通の空間の特徴についての考察

- 公共交通機関で、落ち着かなかったり、警戒心を持つ人が一定数いることは、LGBTQ+にとって、公共交通機関は、

①逃げられない閉鎖空間で

②赤の他人(偏見を持ち自分を攻撃するかもしれない人も含め)と

③一定時間いっしょにいななければならない

という特有な状況であることが考えられる。

接遇時に共通するポイント

- 多様な性の人はいつも身近にいることを認識する
- マジヨリティである前提で話をしていないか振り返る
- 他の人と同等に接する
- LGBTQ+ をネタにした笑いに加担しない
- 自分が特定の属性を持つ人にどんなステレオタイプを持っているかチェックしてみる
- 不必要にプライベートに介入しない

偏見の視線にさらされる



困りごと

- (バス・タクシー) 見た目の性別があいまいであったり、声が見た目の性別と違っていると、ジッと見られたり、指を指してヒソヒソ話をされたりして不快。混みあったバスや電車で「降ります」と言えずに乗り過ごしてしまうことがある。

接遇において望むこと

- どのような外見・声でも他の利用客と同じように接し、人として尊厳のある扱いをしてほしい。犯罪者や不審者のように扱わないでほしい。
- LGBTQ+を笑い者のように扱わないでほしい。様々な性の人やカップルがいることを前提とした対応をしてほしい。

思い込みや決めつけで対応される

困りごと

- (タクシー) 1対1の空間なので、直接いろいろ話しかけられるかもしれないという不安がある。見た目や性別のことなどを聞かれたり、それに答える／答えないことによって嫌な対応(蔑まれたり、邪険に扱われたり、わざと遠回りをされるなど)をされるのではないかと億劫に感じる。
- (タクシー) レインボーパレード会場に行こうとしたら、「ああいう人たち理解できないよね」と同意を求められ返答に困った。

接遇において望むこと

- 性別で分ける呼び方(おねえさん、おにいさん等)や異性愛前提の呼称(奥さん、旦那さん等)を使わず、「お客様」「お連れ様」などを使う。
- マイノリティ当事者にとっては、車内の力関係において運転手は抗いがたい強者であることを自覚してほしい。
- 異性間か同性間かにかかわらずセクシュアル・ハラスメントに該当する会話、性的指向の決めつけを一方向的にしないでほしい。

性別が一致しない事を理由に不正を疑われないか不安



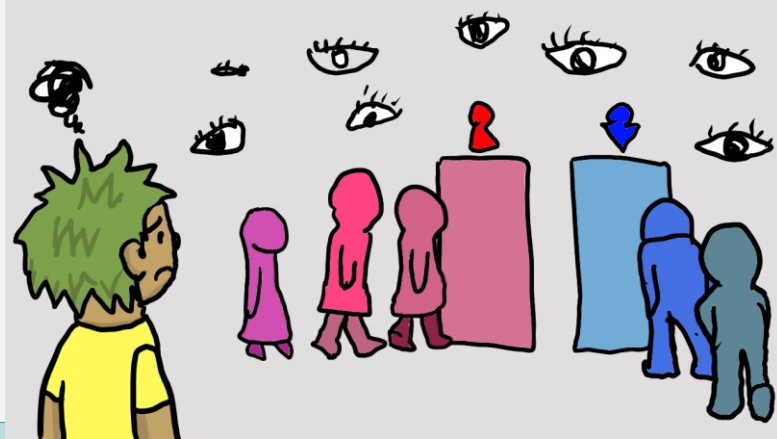
困りごと

- 交通系ICカード・定期券・高速バス・乗船名簿等は性別の記入や表示があるため、外見と登録上の性別が一致しないということで不正や犯罪扱いされるのではないかと心配。

接遇において望むこと

- 書面等に記載されている性別と見た目の性別が一致していないことを大声で指摘するなど、性別の不一致が他の利用客に知られるような対応をしないでほしい。
- 本人確認が必要な場合は、その理由を説明し、性別にこだわらず、生年月日、顔写真などで確認し、利用客が不快にならないよう配慮してほしい

トイレが使いにくい



困りごと

- 性別があいまいなので、男女に分かれたトイレには入りづらいが、バリアフリートイレは使用中であることが多い。数が足りていないので不便を感じている。
- 「健常者」に見えるため、なぜバリアフリートイレを使うのか、という目で見られるのが辛い。

接遇において望むこと

- トイレの使用はそれぞれの性自認を尊重してほしい。
- 見た目の性別が曖昧／異なって見える人やトランスジェンダーなどのトイレ使用について、他の利用者とトラブルがあった場合は、職員は複数人で対応し、双方の話を個別に聞いてほしい。
- その際できるだけ双方を離して話を聞き、不審者扱いせず、公平に対応してほしい。

終わりに

- 公共交通機関が人々に与える影響力は大きい。
- 接遇だけでは解決しないこともたくさんある。
- システム・構造などを変えていく必要もあり、関西私鉄での定期券性別表記廃止の流れや夢洲駅のオールジェンダートイレ設置などの好事例も出てきた。
- まずは「知る」、そして「考え」、「行動すること」が大切。

参考資料

下記URLから参考資料がご覧いただけます。

- 交通アンケート報告（20230109）
- LGBTQ+と公共交通機関資料
- ダブリンバス、Cチームポスター
- カナダ交通事情紹介
- LGBTQの困りごと～事例と対応～
- 安心トイレ空間のチェックポイント



<https://drive.google.com/drive/folders/1Syc8nTSUCZafXp8wiXu1scnyUUh-BJ2M?usp=sharing>



ご清聴ありがとうございました！